

長沼町グリーンツアーリズム事業

(教育旅行)

空知総合振興局

【長沼町グリーン・ツーリズム事業の特徴・理念】

次代を担う子ども達が農業とふれあい、農業に興味を持つことができるよう、農業体験等の機会を創出するとともに「食育」を農業者や関係団体等と一体となって推進している。

【地域の概要】

①自然環境

石狩平野の南東部に位置し、千歳川、夕張川に挟まれ、東部は馬追（マオイ）丘陵が広がる。

札幌市から東に32kmの距離にあり、北海道の空の玄関である千歳市に隣接しており、都市近郊型の田園地帯である。

②人口

長沼町：10,537人
(2020年11月時点)

③主な産業

●農業

水田の8割が転作田で、稲作、畑作、野菜、花き、酪農など多彩な農業を展開してる。



ながぬまマオイ夢祭り



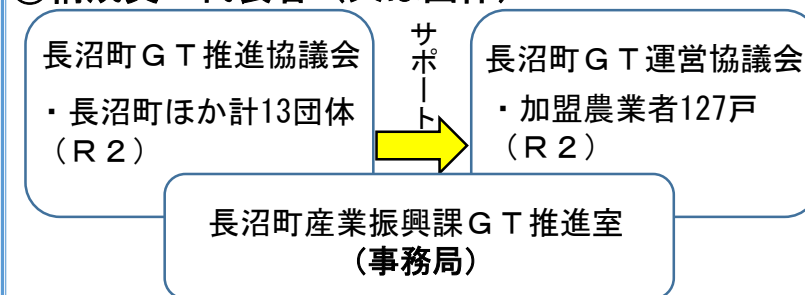
夕焼け市

④イベント等

ながぬまマオイ夢祭り
夕焼け市

【事業推進組織の概要】

①構成員・代表者（又は団体）



②設立の経緯

- 長沼町グリーン・ツーリズム推進協議会
平成15年に長沼町とJAながぬまとで、地域農業の活性化のためグリーン・ツーリズム研究会を発足。平成16年、国の構造改革特区「長沼町グリーン・ツーリズム特区」の認定を受け、町内9団体により構成されたグリーン・ツーリズム事業を進めるための推進協議会を設立。
- 長沼町グリーン・ツーリズム運営協議会
平成17年にグリーン・ツーリズム事業を実践する農家により構成され、設立。58戸の農業者が簡易宿所の許可を受け修学旅行生の受入を開始。
- 長沼町産業振興課グリーン・ツーリズム推進室
長沼町産業振興課に設置。推進・運営協議会の事務局を推進室内に置き、グリーン・ツーリズム事業の具体的な運営・実践に務めている。

③現在の課題

加盟農家の高齢化に伴い受け入れ農家が減少（加盟農家：H22 211戸→R2 127戸、受入人数：H22 6,068人→R元 1,434人）。新規加入農家の発掘が必要となっている。

【主なコンテンツの種類及び実績】

①宿泊プランの例（3泊4日）

1 日 目	新千歳空港 →バス移動・長沼町へ	対 面 式	各受入先へ移動・ 昼食、作業体験		
2 日 目	受入先での作業体験・食育体験（共同料理） （家族との団らん）				
3 日 目	朝食	解 散 式	千歳市 で昼食	壮警町へ 有珠山ロープウェイ、 昭和南山	洞爺湖町 【宿泊】
4 日 目	洞爺湖町出発 → 白老町へ 国立アイヌ民族博物館				新千歳空港 へ

②受入人数と受入農家戸数

年度	H29	H30	R元
受入人数	2,724	1,993	1,434
受入農家戸数	160	152	138

③利用状況

【利用者の形態】

- ・関東・関西圏の首都圏からの修学旅行生の受入が主体となっている。

【長沼町を訪れた人達との関わり】

- ・卒業後に長沼町を訪問してくれる。
- ・学校祭で長沼町産の野菜を販売してくれる。
- ・定期的に野菜やお米を購入してくれる。
- ・農作業体験で植えた米を給食で食べる。
- ・宿泊農家との交流。

【特徴的な取組】

- 長沼町グリーン・ツーリズム特区
 - ・平成16年に国から認定を受ける。平成17年には変更認定を得たことにより、濁酒製造に関する規制の特例措置を受け、5戸の農業者がどぶろくを製造・販売。



<長沼町グリーン・ツーリズムの取組>

- 田植えや稲刈り、雑草取り、ブロッコリーの収穫等、受入時期に農家が実際に行っている作業を受け入れた学生と一緒に実施。食事も農家と学生と一緒に準備を行う。何も特別なことはしていない。ありのままの日常を受け入れた学生に体験させている。
- 長沼町を訪れた人たちは、学校祭で長沼町産の野菜を販売したり学校を卒業後に長沼町に来て宿泊農家と交流したりと、息の長い付き合いを続けている。
- 平成29年から海外の修学旅行生を受入れ、インバウンド需要を取り込む。



【連絡先】

代表窓口：長沼町グリーンツーリズム推進協議会

（事務局 長沼町産業振興課長沼町グリーンツーリズム推進室

TEL：0123-76-8019

E-mail：green-t@ad.maoi-net.jp)